



東北大学



2016年12月14日

東北大学大学院医学系研究科

うっ血性心不全患者で摂食嚥下障害併存を予測する

- 認知機能と栄養状態検査で摂食嚥下障害の早期発見へ -

【研究概要】

東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野の大学院生横田 純一（よこたじゅんいち）、小川 佳子（おがわ よしこ）元助教（現 帝京大学）、上月 正博（こうづき まさひろ）教授らのグループは、認知機能障害と低栄養状態が、入院時のうっ血性心不全急性増悪患者における摂食嚥下障害^{注1}併存の予測因子であることを科学的に実証しました。

うっ血性心不全患者における摂食嚥下障害の併存は誤嚥性肺炎等の原因となり、在院日数の長期化、予後の悪化、医療費の増大など様々な問題を引き起こします。そのため、入院時の摂食嚥下障害を早期に発見し、介入することは重要な課題となっています。

今回、うっ血性心不全の急性増悪で入院した患者を対象とした研究において、認知機能障害と低栄養状態は入院時の摂食嚥下障害を予測する因子であることが明らかになりました。これにより、うっ血性心不全急性増悪における摂食嚥下障害の早期発見や生命予後の改善につながることを期待されます。

この研究成果は、2016年11月29日午後2時（米国東部標準時、日本時間11月30日午前3時）にPLOS ONE誌（電子版）に掲載されました。

【研究のポイント】

- うっ血性心不全患者における摂食嚥下障害の併存は誤嚥性肺炎等の原因となり、在院日数の長期化、予後の悪化など様々な問題を引き起こす。
- うっ血性心不全患者における摂食嚥下障害を早期に発見し、介入することは重要な課題である。
- 認知機能障害と低栄養状態は入院時の摂食嚥下障害を予測する因子である。

【研究内容】

うっ血性心不全（Congestive Heart Failure: CHF）は、心臓のポンプ機能の低下により肺や下半身に体液が貯留してしまい、肺水腫や下肢の浮腫が生じる疾患です。現在、CHF の患者数は世界的に急増しており、特に、様々な合併症や既往を持つ CHF 患者が増加していることが大きな問題となっています。入院期の CHF 急性増悪患者に発生する問題の一つとして摂食嚥下障害があります。摂食嚥下障害による誤嚥性肺炎^{注2} 合併や低栄養状態は入院患者の病態を悪化させたり、生命予後に影響を与えたりする可能性があるため、摂食嚥下障害を早期に発見し、介入することは非常に重要です（図 1）。しかし、CHF 急性増悪患者のうちどのくらいの割合で摂食嚥下障害を持っているかは不明であり、摂食嚥下障害の併存と関係がある因子についても明らかになっていませんでした。そこで、本研究では CHF 急性増悪における摂食嚥下障害の併存率およびその予測因子について前向きに調査しました。

CHF 急性増悪の診断で入院した患者を対象として、心臓超音波検査、心電図検査、血液・生化学検査、認知機能、運動耐容能、発声機能、日常生活自立度、栄養状態の評価を行いました。その結果、摂食嚥下障害は 38.6%に認められ、認知機能障害と低栄養状態が摂食嚥下障害の併存に関わっている因子であることが明らかになりました。

本研究では CHF 急性増悪患者における摂食嚥下障害の併存率を初めて前向きに調査したものであり、本研究の結果は、CHF 急性増悪患者における摂食嚥下障害の早期発見の一助となり、誤嚥性肺炎の予防、入院期間の短縮、生命予後の改善に寄与する可能性があると考えられます。

【用語説明】

- 注1. 摂食嚥下障害：食べ物や飲み物を食べたり飲み込んだりする機能に支障をきたす障害。通常は無意識のうちに食べ物や飲み物を目やにおいて認識し、口まで運び、口の中に入れて嚥み、飲み込むことで、食物や液体を摂取しています。この一連の動きの一部に障害が起きることを摂食嚥下障害といいます。
- 注2. 誤嚥性肺炎：水や食べ物、胃の中のものなど逆流して肺に入ってしまう、細菌が繁殖して炎症を起こすこと。高齢者のかかる肺炎は、誤嚥性肺炎が多いと考えられています。

認知機能障害と低栄養状態は、
うっ血性心不全患者における摂食嚥下障害併存の予測因子である



図 1. 認知機能障害と低栄養状態はうっ血性心不全患者における摂食嚥下障害併存の予測因子である。

【論文題目】

Title:

Cognitive dysfunction and malnutrition are independent predictor of dysphagia in patients with acute exacerbation of congestive heart failure

Authors:

Junichi Yokota, Yoshiko Ogawa, Shinsuke Yamanaka⁴, Yoshimi Takahashi, Hiroshi Fujita, Nobuhiro Yamaguchi, Noriko Onoue, Takeshi Ishizuka, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Kohzuki

日本語タイトル:

「認知機能障害と低栄養状態はうっ血性心不全急性増悪患者における独立した予測因子である」

著者名:

横田純一、小川佳子、山中信介、高橋佳美、藤田央、山口展寛、尾上紀子、石塚豪、篠崎毅、上月正博

掲載誌名: PLOS ONE

【お問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学大学院医学系研究科

内部障害学分野

教授 上月 正博（こうづき まさひろ）

電話番号：022-717-7351

Eメール：kohzuki@med.tohoku.ac.jp

（報道に関すること）

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

講師 稲田 仁（いなだ ひとし）

電話番号：022-717-7891

FAX 番号：022-717-8187

Eメール：pr-office@med.tohoku.ac.jp